

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495100040	事業の開始年月日	平成18年5月1日
		指定年月日	平成18年5月1日
法人名	特定非営利活動法人 楽		
事業所名	ひつじ雲		
所在地	(〒 212-0011) 川崎市幸区幸町4-18-8		
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名
		通い定員	15名
		宿泊定員	4名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご本人を中心に・・・ いつまでも自分の力で、歩けるようにお手伝いします。 食事は手作り。美味しく食べて、体力維持ができるようお手伝いします。 自宅で暮らし続けたいと願うご家族と話し合い、 訪問という形を多くとって利用者本人・ご家族を視野に入れた支援を行っています。 地域の行事に参加したり、地域の方を対象に食事会の開催を定期的に行います。 地域の方々との相互協働ができるように力を入れています。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年12月26日	評価機関 評価決定日	平成27年4月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 小規模多機能型居宅介護事業所ひつじ雲は、JR川崎駅西口から徒歩10分ほどの、川崎の大商業地を抜け1歩裏通りに入る古い商店街の中にある。丸9年間運営した幸町2丁目の旧事業所から、すぐ近くの幸町4丁目の3階建てマンションの1階、コンビニエンスストア跡地に移転し、平成25年6月から運営を開始した。建物は当初から小規模多機能型居宅事業所として設計、建築しており、これまでの長年の介護事業経験が随所に反映されている。調査当日現在、登録20名、通い10名である。</p> <p>【利用者と家族に寄り添う介護支援の継続】 「人格の尊重、生活の継続性、社会参加、自主性の向上」は、利用者の在宅生活を支える事業所の理念である。特に利用者の生活の継続には家族の協力が不可欠であると考え、日頃から家族と話し合い、家族の「揺れる気持ち」に寄り添っている。在宅での食生活に役立ててもらえるよう毎月の献立表を渡し、ホームページにも載せている。初回アセスメントの時から、職員は家族から何回も聞き取りを行う。送迎、訪問、散歩、入浴などで利用者とマンツーマンになった時を活用し、生活全般を聞き取り、利用者の言葉に込められている思いや希望をくみ取っている。</p> <p>【社会参加と地域の理解】 事業所は、本年6月にチャリティーバザーを開催し、収益及び義援金の全額を全国小規模居宅介護事業所連絡会を通して被災地に送付した。法人の地域交流施設「ひこうき雲」での茶話会、地域包括支援センターと協働での食事会・介護相談会で、利用者、家族、職員が地域住民と交流している。市から「地域善隣事業」の協力を求められ、「カフェ作り」を検討している。来春から「川崎市介護相談員」の受け入れを始める。町内の方々とも協力的体制づくりを進めており、災害時やバザーなどの時に協力を仰いでいる。ボランティアや学生などの出入りが多く、利用者が社会参加できる機会を作っている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ひつじ雲
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人格の尊重」「生活の継続性」「社会参加」「自主性の向上」、法人設立時に作り上げた理念がある。その理念を基に職員間で話し合い、様々なケースを支援している。	利用者の在宅生活を支える4項目からなる理念は、法人「楽」設立時に理事長とスタッフが作成した。毎日のミーティングや毎月の職員会議では理念に基づいて話し合い、職員間で再確認し、その人らしさを大切に支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神社の祭礼の準備や神輿の担ぎ手、または地域の運動会に職員が参加。利用者は見学に出かける。利用者も活用できる「ひこうき雲」を設立し、地域の方に開放している。	町内会に加入して地域神社のお祭りや町内行事に参加している。法人の地域交流施設「ひこうき雲」での茶話会に利用者が参加している。地域包括支援センターと協働での食事会・介護相談会で利用者、職員が地域住民と交流している。大学生の実習を受け入れている。ボランティアとは、一緒にバザーを開催したり、開設時にボランティアが脱衣所などの棚を作ってくれるなど協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が設立した地域交流の場「ひこうき雲」で、茶話会を定期的に行っている。町内会館ををお借りして、月に1度食事会を行い、地域包括と協働し介護相談など出来る場になっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度のペースで開催している。地域で暮らし続ける事の可能性など、議題となる事が多い。地域活動の実践を報告し、意見を頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。幸区職員、地域包括支援センター職員、地域の方々、民生委員、利用者家族などが参加している。活動状況や行事などの報告のほか、地域の問題を話し合っている。利用者の在宅時の状況や介護の状況を聞き、事業所も困っていることを率直に話している。地域包括支援センターとの協働については、行政も交えて検討している。	

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加頂いている。事例の相談や、地域活動への理解や協力を頂いている。 川崎市主催の自立支援介護講習会に参加した。	要介護認定申請代行を行っており、市介護保険課には必要な書類を届けている。 市や地域包括支援センターの研修に参加している。新事業所建設の際には区の協力を得た。市から「地域善隣事業」の話があり、協力している。来春から「川崎市介護相談員」の受け入れを始める。	
---	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止を職員会議の議題にするなど、職員間で共有するようにしている。日中は玄関の鍵はかけず、外へ出たい方は、職員と一緒に行動している。	身体拘束しないことを運営規定、重要事項説明書に明記し、実践している。日中、玄関は施錠せず、外へ出たいそぶりの利用者には、職員と一緒に散歩に出かける。川崎市作成の平成22年度版「身体拘束禁止マニュアル」で毎年研修している。今年度は、集団指導講習会のあと、職員に研修を実施した。「待つて」などは言葉による拘束と考え、意識して使わないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当事業所では「虐待及び身体拘束は一切行わない」という方向で全員徹底し、マニュアルも配置している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、自立支援に対する理解を深め、実践している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用・解約に関しては十分に話し合いの時間を設けている。利用に際しては、見学や利用体験をして頂き、不安な気持ちが軽減できるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	送迎の時間や連絡帳などで、ご家族に気軽に意見を言って頂き、それに応えるようにしている。不安な気持ちが軽減できるように努めている。	連絡帳などで意見、要望を聞いている。連絡帳に「職員の声が高いので利用者が聞き取りにくい」との家族の要望があり、職員ははっきりと聞こえるように声の高さに気をつけている。家族会で家族交流会を開催しており、今後意見が出てくることを期待している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等の場で意見をもらい可能な事はできるだけ反映させている。例：新ひつじ雲の建築には、職員の意見を出してもらい、反映さえてきた。	毎日の夕方のミーティングや毎月の職員会議などで意見交換をしている。職員が直接、管理者、理事長に意見を言うこともある。新事業所の設備、レイアウトには、玄関の車いす用のスロープや玄関わきのトイレの設置など、職員の意見が多く取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の頑張りがあるから、ひつじ雲の今があると感謝しているし、職場環境の改善に取り組みたいと思っている。ただ、小さな組織での限界はあり、益々介護報酬等、周囲の条件が厳くなる中で、限界状態で運営しているのが実態。そのため、理事長は一切の報酬を受けていない。一円でも多く、職員に渡る様努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの質の向上は、介護事業所にとって欠かせない。職員が学びたいと考える内容と、組織が必要と考える研修内容が一致する内容であれば受講させる。職員会議の中で、研修を取入れている。介護の学生を実習を受け入れ、学生から学べることも大切と考え進めている。		
		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	川崎市内の小規模多機能型居宅介護の研修を、ひつじ雲が企画し実行している。今年も9月から2月までの研修参加を市内の事業所に呼びかけ参加してもらっている。また、研修期間以外の月一回、管理者レベルが集う場を設定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時は、まずは関係作りから行うようにしている。当面は、通いの場合職員と一緒に過ごす、訪問の場合は、2～3人の固定した職員が何う様にして、ニーズを汲み取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談の段階から、ご家族の思いを受けとめ、ひつじ雲として、どのように支援できるか、誠実に対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの開始と同時進行で、必要としている事を把握していくよう努めている。必要であれば、他のサービスと連携している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物やおやつ作りなど、日常的な事を一緒にして頂いている。ひつじ雲の中で役割を持っている方もいる。会話の中には、人生の先輩であることを感じる場面がたくさんある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ひつじ雲でのご様子をお伝えしたり、ご自宅での過ごし方を、家族に何うなどで、関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	送迎や散歩の時に、ご近所の方々と気軽に挨拶や会話が出来るように支援している。「茶話会」や「食事会」に参加し、交流をもったり、地域の行事に参加できる支援をしている。	利用者が地域の行事に、「お祝い」を持って行き、地域との関係を継続している。家からの散歩で商店街に行き、地域で肉や野菜などの買い物をするのを支援している。近隣の花見に行ったり、食事会で知り合いに会えるよう支援している。読書好きな利用者は図書館を利用している。地域の方が事業所をよく知っていて、訪問してくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話が合う方同士、席を近くにしたり、自由に移動できるような働きかけをしている。職員が間に入る事で、関係性ができたり、利用者同士で楽しめるように環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去に利用されていたご家族が、食事会や茶話会のボランティアとして参加してくれる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントは、本人と家族、あるいは本人のみ、又は家族のみ等、様々な思いを把握するように努めている。日々のかかわりの中では、言葉や様子から思いを汲み取るようにしている。	初回アセスメントの際に思いや意向を聞き、その後も職員が何回も家族から聞き取りを行う。その人となりを理解し利用者の以前と現在の暮らしの流れ、こだわり、できること・できないこと、支援して欲しいことを職員間で共有している。利用者が地域のお祭りに、「お祝い」を持って行き、事業所代表としての役割を持てるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ライフサポートプランの「私の暮らしまとめシート」を活用し馴染みの暮らし方を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	通いや訪問の時の様子。ご家族からの連絡帳やお話などで、状況を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ライフサポートプランを採用し、利用者の生活にあった介護計画を作成している。職員が担当になり、個別援助計画を作成し、皆で評価をする。	初回アセスメント後のカンファレンスをこまめに開き、議事録として残し、家族とも共有している。介護計画書は急変時にはその都度、見直している。個別援助計画書を担当職員が作成し、その計画の評価を職員全員で行う仕組みである。訪問、通い、泊まりの計画が1つの表となっていて、見やすく工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の個別記録は、必ず記録している。状況の変化等は、適時ミーティングの課題として共有している。それを踏まえ支援内容の見直しなど随時行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の生活のリズムに合わせた送迎の時間設定、ひつじ雲への通い・泊りだけでなく、地域で暮らし続ける為、自宅への訪問支援など多機能なサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徘徊の可能性のある方に対し、公共機関としてSOSネットワークへ登録をしている。 一人暮らしの方に、地域の老人会や、民生委員の見守りが定期的にある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望により、通院の支援を行っている。急変時などは、ご家族やかかりつけ医に連絡をとり、受診の指示を仰ぎ、対応している。	利用者全員がかかりつけ医を継続して利用している。家族対応だが職員も付き添うことがある。定期的に通院介助を行う利用者も2～3人いる。往診を近くの医師に変えることもある。家族が受診に同行した時は連絡帳の「個人記録」欄に内容を記入し、職員同行時は家族に電話で報告して情報を共有している。訪問歯科に慣れない利用者には、最初は受診し、医師に慣れてから往診に変更している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化などを観察し看護職員に伝えている。場合によっては、ご家族に受診を促している。また、必要に応じて看護職員が通院の付き添いを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、医師や院内のソーシャルワーカーと連絡をとり、情報交換を行っている。在宅生活を継続する為の支援の提案を行い、相談させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と様々なタイミングで話合う機会を設けている。当事業所で出来る事、出来ない事を明確に伝え、医療や様々な関係者と連携をとるように努めている。	日頃から家族と話し合い、家族の「揺れる気持ち」に寄り添っている。契約時に「緊急時対応同意書」を受け取っている。訪問医療と連携して、できるかぎり家での看取りを支援している。事業所は、死はゴールではなく、在宅生活の延長線上に「死」があるのが自然なことと捉え、看取りを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練は、今年度まだ実施しておらず、新人職員への訓練ができていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。地域の方々に、災害時の避難に協力を依頼している。	年2回の防災訓練を実施している。11月には昼間の想定で行った。1月には夜間想定で消防署の協力を得て行う予定である。近隣との協力として、町内の方々などが、夜間救急協力メンバーに電話登録している。向いの八百屋から駐車場を第1次避難場所として提供してもらうなど、地域商店との協力関係がある。備蓄は水6ケース、パンの缶詰などの非常食を回転備蓄している。毎日「自主検査チェック表」で火の元を点検し、不備があった場合は、防火管理者に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人を尊重した対応をする事を方針としている。	理念の初めに「人格の尊重」を挙げ、その人らしさを支援している。一人ひとりを知り個性や状況に合わせた個別対応を心がけている。トイレや風呂への誘いは小声で、耳元でするようにしている。入居時に、事業所の刊行物へ顔写真の掲載が可能かを家族に確認し、不可の場合は顔を写さないことを徹底している。個人ファイルは鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必要に応じ、個別対応を心がけている。その中で、ご本人の希望や、自己決定を尊重し、活動するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて援助する体制をとっている。言葉での確認のみならず、体調の変化に合わせた過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や、化粧、整容の方法など、その方のこだわりや習慣を大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が好きな方、片付けが得意な方、体調に合わせて楽しみながら、やりがいを感じていただけるよう支援している。感謝の言葉を伝え、皆で食べる事を楽しんでいる。	食事は法人の栄養士のレシピにより、手作りしている。利用者が盛り付けなど、できることを手伝っている。職員も同じ物を一緒に食べながらマンツーマンで食事介助と声かけをしている。利用者家族に毎月の献立表を渡し、連絡帳に印刷し、ホームページにも載せている。利用者は「ありがとう」の言葉と共に、にこやかに食事をしていた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	確実に食事がとれるように、その方の状態にあった、軟らかさ、形状を工夫している。環境を整える事も含め配慮している。水分も体調維持の為には、重要であると方針付け、色々な飲み物で、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方は来所直後の口腔ケア、食後には全員の方が、口腔ケアを行っている。長年、食前には口腔体操を行っている。いつまでも自分で食べる事を大切にしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員が研修に参加し、理論を基に現場での実践に皆で取り組んでいる。トイレで排泄する為の、食事や、歩行など総体的に考えるようにしている。	排泄チェック表をもとに時間を見て声掛けしている。介助できる広さのトイレが3か所あり、便座が昇降し、折り畳みの介助バー付きとなっていて、利用者の自立支援に役立っている。玄関わきにもトイレがあり、浴室隣のトイレは別のドアで浴室の脱衣所につながっている。日中は二人介助で、歩くトレーニングも兼ね、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や、水分をしっかりと摂って頂くことに加え、身体を動かす機会を作っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴をお誘いする時は、気持ちに配慮している。時間をおいてお誘いしたり、言葉かけを工夫し、入浴を楽しんで頂けるようにしている。	通いの日の入浴は、マンツーマンで30分くらいかけて利用者の話をじっくり聞いている。浴槽のふちが低く、移動式の手すりがあり、使いやすい設計になっている。車いすごと入浴できるリフトがあり、重度の方の介助も楽になった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	日中でも、体調や、ご本人の習 慣に合わせて、横になる機会を持 って頂いている。泊りの時も環 境を整え、不安の無いように支 援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	薬が処方された時は、説明書の 複写を頂くなどして、情報を得 ている。通い・訪問において服 薬介助が必要な方は対応してい る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	その方の出来る事、好きな事 を聞き出したり、あらたに関心 が持てそうな事を提案している。 楽しんで出来る場面作りをして いる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している	買い物や散歩など日常的に、外 出の機会を作っている。一人ひ とりの体調に合わせて、出かけ る場所の工夫をしている。地 域の区や市の祭典、祭礼など可 能なかぎり共に出かけている。	天候が良い日は、職員が付き添 い、土手まで花見に行ったり、 事業所の近くの商店街に買い 物に行ったりしている。川崎 駅まで近いので、大型商業施設 まで散歩に行き、ウィンドウ ショッピングをする利用者も いる。希望に応じて、図書館 や地域の催し物へ通うことを 支援している。事業所では、 歩くことが自立の支援につな がることを考え、あらゆる機 会をとらえ出かけるようにし ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している	お金の管理ができる方、ご家 族が了承している方は、新聞 や日用品を買ったりする機会 を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を必要とするときには、支援する。 年末に、皆で手書きの年賀状を作って出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昨年6月から現在のひつじ雲に移転した。なじんだ家具を使い続けたり、季節感を感じていただくような配慮は継続している。	床は、転倒の反動を吸収する柔らかい床材を使用し、床暖房になっている。広い玄関には、車いすでも通れるスロープがあり、出入りの際すぐに使えるように隣にトイレを配置している。家具などは以前から使用している趣のあるものを使用している。午前中は低いテーブルとソファを使用し、昼食からは高いテーブルに変えるなどして、時間や空間の変化を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室で静かにすごしたり、掘りごたつの部屋で、数人でくつろぎの時間を持つことができる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝室は、落ち着いて過ごせるように配慮している。普段使っているパジャマを持ってこられたり、心地良く過ごしていただくよう支援している。	泊りの部屋は4部屋ある。1部屋は、リビングの一部を囲い確保している。ベッド柵は日中なるべく使わないようにし、カバーをつけて工夫している。泊りの利用者は、お気に入りのパジャマを持参している。安心感を持ってもらえるよう、なじみの職員を配置し、前事業所で使用していた机なども使用し、なじんだ環境を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自宅で歩いて移動されるのと同じように、ひつじ雲でも同じような動作を支援している。安全に配慮して、二人介助で行う事もある。		